

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	鳥栖市立弥生が丘小学校
-----	-------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校目標「自ら学び、やさしく、たくましく生きる『弥生っ子』の育成」の具現化に向けて、ほとんどの項目で成果が上がってきている。今後も、成果が見られた取組等は継続して行うとともに、取組内容や成果指標を見直しながらさらなる改善策をとり、課題の解決に向けて取組を進めたい。</li> <li>・タブレット端末の有効活用については、ICT教育リーダーを中心にミニ研修会を行ったり、業者等の説明会を実施したりして活用の幅が広がってきている。今後は、さらに有効活用ができるように職員の知識や技能を高めていきたい。</li> <li>・学校運営協議会や地域学校協働活動推進委員、また、PTAと連携しながら全学年に体験活動を実施することができた。今後も、コミュニティ・スクールの良さを活かし、地域との連携をさらに強化し、よりよい学校を構築していく。</li> </ul>
---------------	--

2 学校教育目標	<p>自ら学び、やさしく、たくましく生きる「弥生っ子」の育成          ～凡事徹底で、気持ちのよい学校にしよう～ 誰もが生き生きとした学校</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>○心の教育の充実 ○確かな学力の習得 ○健康・体力作り ○特別支援教育の充実          ○安全・安心な学校 ○小中一貫教育（小小・小中連携） ◎開かれた学校（地域と共に）</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	学校関係者評価	主な担当者
---------------	------	--------	---------	-------

(1)共通評価項目					主な担当者					
重点取組			中間評価			最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標（数値目標）	具体的取組	進捗度（評価）		進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・校内研究の充実	○全教員が校内で研究授業を実施し、授業力向上に努める。 ○研究教科である算数において、学力調査（国・県）で県平均を上回る。	・算数科の研究授業等を通して、主体的・対話的な学びから深い学びにつながる授業展開の研修を深める。 ・授業づくりを中心に、タブレット端末の活用方法を探っていく。	A	・算数科の全体研究授業の実施や講師を招いての授業研究会により全職員の研修の場となった。日々の授業の中で実践し、授業力向上を続けていく。 ・各教科でタブレット端末を活用し、学年に応じた活用方法を考え実施している。	A	・校内研究を通して、全職員が授業改善の意識をもって取り組み、9割以上の職員が、主体的・対話的な学びを引き出す授業展開を実施できた。タブレット型端末の活用に関しては、学年に応じて、教科や活用の仕方を工夫して、算数以外の教科で多くの場で活用できた。 ・5・6年生の学力調査（国・算）においては、県平均を上回った。	A	・佐賀県は学力調査の成績が良好ではないため、県平均との比較でよいのか。 ・県平均を上回っているのは、全職員が授業改善の意識をもって取り組んだ成果であり、感謝している。今後も継続を期待したい。	指導教諭 研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校アンケート「友達には優しくしたり、仲良くしたりできる。」の児童評価を90%以上。	・人権教育やUDの視点をもった学級経営や授業に取り組む中で、児童一人一人を大切に指導や支援を心がける。	B	・道徳やSSTの教材を共有し、授業の質の向上を図っている。 ・保護者による道徳の指導への肯定的な意見が90.9%であった。	A	・ほとんどの学年がふれあい道徳を行うことができた。 ・学校アンケート「友達には優しくしたり、仲良くしたりできる。」の児童評価は96%と目標を達成することができた。	A	・ふれあい道徳の推進で、家庭・地域との連携を強化してほしい。 ・ほとんどの児童が友達に優しくしたり、仲良くしたりして、本当に素晴らしい。	道徳教育推進教諭
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校アンケート「学校は、いじめや生徒指導の問題等にきちんと取り組んでいる」の設問に、肯定的な回答をした保護者の割合が85%以上。	・挨拶・言葉遣いや教室環境の整備の指導を徹底し、未然防止に努める。 ・毎月、生活アンケートを実施し、実態把握を確実に行う。 ・職員連絡会において気になる児童の情報共有を行う。 ・事案発生時は、教育委員会への報告と共に、関係した児童への指導及び支援、保護者への連絡等を確実に行う。	A	・定期的ないじめ、生活に関するアンケートの実施や日々の見取りを通して、いじめや生徒指導上の問題の早期発見・早期対応に努めている。 ・保護者による肯定的な評価も90%を超えていて目標を達成できている。	A	・「学校は、いじめや生徒指導の問題等にきちんと取り組んでいる」の設問に対する保護者の肯定的な回答は、年間通じて90%を超えている。 ・毎月の生活アンケートの結果や日々の児童の見取りによって問題行動やいじめの早期発見・早期対応に努めることで事案の深刻化を防ぐことができた。 ・気になる児童や生徒指導に関する事案について職員間で情報交換を行うことで、学校全体の課題として捉え、支援や指導に当たる場面が見られた。	A	・教職員の情報交換等、児童の身になって対応している成果だと感じているが、登・下校時など学校外のない対策も必要である。	主幹教諭
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上 ●「夢や目標をもって頑張っている。」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上 ●「夢や目標をもって頑張っている。」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・子どものよさを見つけ、認め、伸ばし、褒めることを共通理解し、実践につなげる。 ・集団の中で自己肯定感や自己有用感が感じられるような役割や活動を学級やクラブ活動、委員会活動、学教行事等で仕組む。 ・キャリアパスポートを活用した学級活動の時間を意図的に仕組む。	A	・学校アンケートの「学校は、子どもたちに目標を持たせて取り組んでいる」に92.8%の保護者が思うと回答。 ・学級や委員会活動、行事の中で、自己の良いところを発揮して活躍する場面が多く見られ、自己肯定感を高めることができていくと思われる。	A	・2回目の学校アンケート「学校は、子どもたちに目標を持たせて取り組んでいる」においても、92.8%の保護者が思うと回答。 ・地域（まちづくり推進センター）と連携して、全校児童に体験活動を仕組むことができた。学校以外の活動においても、将来の夢や目標につながる意欲をもたせたり、自己肯定感を高めることができたと思う。	A	・教職員が、子どもの長所をうまく伸ばし、やる気を促していることで児童は夢や目標を持つことができている。自己有用感を高めるため児童をほめてほしい。
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童65%以上	・各学級で「みんなで遊ぶ日」等を設定するなど、外で体を動かす機会を増やしていく。 ・運動委員会を中心としてイベントを企画し、体を動かす楽しさを味わわせる。	B	・各学級でレクリエーションを週1回企画するなどして外でドッジボールや鬼ごっこなどをして体を動かす児童は多くなってきた。しかし学級での活動がない日は気候的に暑くなってきて校舎内に残る児童が増えてきた。	B	・県のスポーツチャレンジ「ドッジボールラリー」や「大綱とび」に積極的に取り組み運動の機会を増やすことができた。 ・運動委員会を中心に安全かつ楽しく運動に親しめるよう熱中症防止ポスターや運動推進ポスターを掲示したり、なわとび大会を企画して体を動かす楽しさを味わわせることができた。 ・全国体力・運動能力、運動習慣調査にて、「授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上」の児童は男子50%、女子44.6%となった。	B	・学校では、学習も運動も大切であり、児童にもっと遊ぶ（運動）大切さも学ばせたい。家庭での運動習慣も必要である。 ・学校では、各種の具体的な取り組みを実施しているが、その取り組みが有効に機能できるように、鳥栖市が体育館空調設備を整備したり、スポーツ施設の充実を図ったりして、子どもたちが年間を通して安全に安心してスポーツを楽しめる環境づくりを進める必要がある。	体育主任
	○望ましい生活習慣の形成と食育の推進	○早寝、早起き、朝ごはんの習慣化できた児童を75%以上。 ○給食の残菜率を6%以下。	・基本的な生活習慣を身に付け、健全な心身の発育や発達を促す。 ・給食、食育指導の充実を図る。	A	・「早寝・早起き・朝ごはんを実践している」と肯定的な回答した児童の割合は80%を超えていて目標を達成できている。 ・毎日の残菜率は5%であった。	A	・早寝・早起き・朝ごはんを実践している」と肯定的な回答した児童の割合は、年間を通して80%を超えており、目標を達成している。今後もこの状況を維持するため、継続的な声掛けが必要である。 ・給食時の放送において、給食委員が献立の紹介や栄養に関する話、クイズなどを行うことで、児童の食への関心が高	A	・早寝・早起き・朝ごはんの習慣づけにより、楽しい家庭生活につながる。 ・生活習慣は家庭の課題であり、啓発が必要である。	食育・給食指導担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・施錠時刻を意識させるために、予定時刻の提示や職員への声かけを継続していく。 ・パソコンで共有で見れるような掲示板を活用し、連絡事項等は各自が確認できるようにし、職員会議、職員連絡会の時間の削減を図る。 ・長期休業や行事の後などの年次休暇取得を呼びかけ、取得日数の促進を図る。	B	・毎日、施錠時刻を確認し、できるだけ早く退動できるよう声をかけてきた。昨年度より早いものの、平均して、19時前後の施錠が多くなっている。 ・長期休業期間中は年次休暇取得促進を図ることができた。	A	・職員が見通しをもって業務にあたるよう施錠予定時刻の30分前を目安に声掛けを行ったことで、ほぼ毎日18:00頃には施錠をすることができた。月当たりの超過勤務時間が平均2時間以上縮減することができている。年次取得日数についても14日以上が45%、10日以上にいたっては87%と計画的に取得することができた。	A	・業務の効率化により、時間外業務が減り、教職員のストレス減少につながると思われる。自宅への持ち帰り業務についても把握し、減少につながる必要がある。 ・朝の登校時刻が早すぎる児童があり、それが時間外業務の増加につながることを懸念している。	教頭
	○定時退勤日（金曜日）の徹底	○定時退勤日に17時30分施錠を徹底する。	・職員自身に退勤時刻の設定を行わせたり、金曜日以外にも管理職の定時退勤日を設けたりして、定時退勤の意識化、行動化を図る。 ・掲示や口頭での呼びかけにより定時退勤日であることの意識化を図る。	B	・金曜日は定時退勤日であること意識はできており、通常よりは早く退動できている。しかしながら、18:00頃の施錠となることが多く、これからは継続した声掛けが必要である。	A	・職員が見通しをもって業務にあたるよう施錠予定時刻の30分前を目安に声掛けを行ったことで、ほぼ毎週17:30には施錠をすることができた。早い時には17:00頃に施錠できることもしばしばあった。	A	・金曜日は絶対定時で帰るという共通意志の徹底で、目標は達成できるし、教職員の働き方改革につながる。	教頭
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関して、教員の意識と専門性の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員80%以上	・特別支援教育に関する研修会の実施。 ・ケース会議の開催、関係者間で情報の共有をし、児童理解・支援につなげる。	A	・インクルーシブ教育に関する研修会を7月に実施した。自立活動についての全体研修会、授業研究会を7月に実施した。授業研究会において講師による講話も設定した。 ・ユニバーサルデザインの実践例並びに自立活動実践例を出し合い、共有した。	A	・研修会等で特別支援に関する専門的な話を聞いたり、市の特別支援教育相談員やスクールソーシャルワーカーと連携したりすることで、児童の理解・支援につなげることができた。職員の特別支援教育に関する意識や知識の向上につながった。	A	・教師の専門スキルアップにより、また、研修会等の実施により特別支援教育が充実している。	特別支援教育コーディネーター

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上。 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80%以上。	・実践事例集をもとに、授業作り、教具の検討を行う。 ・参観日に、授業を公開する。 ・学級通信・学年通信・学校HPで教科「日本語」の取り組みを紹介する。	B	・下学年部、上学年部で1回は日本語の公開授業を行うことができた。 ・授業参観の回数も昨年度より一回減ったこともあり、現段階で参観日に授業を公開した学級が少ない。	B
◎児童生徒が夢や目標を持ち、自身をよりよくしていこうとするための教育活動	◎自分が頑張っていることを具体的に表すことができる児童の割合が90%以上。	・日頃から、弥生が丘小学校の「めざす子どもの姿」について意識させる。 ・マナー教室に向けて、児童が頑張っていることを再確認させるとともに、意識の継続を図る。 ・体験活動では、活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	B		・「自分が頑張っていることを表すことができる」と肯定的な回答した児童の割合は82%であった。 ・マナー教室では、ほぼ全員の児童が自分の頑張っていることを具体的に答えることができた。	B	・「自分が頑張っていることを表すことができる」と肯定的な回答した児童の割合は、年間通して80%以上であった。 ・マナー教室に限らず、様々な学習活動の中で、自分の考えを述べたり書き表したりする児童の姿が多く見られた。 ・体験活動では、準備の段階から児童に見通しをもたせて活動にあたり、終了後も振り返りを行って、行動	B	・地域の行事の中で、実行委員を引き受けて事前準備から当日の運営まで自主的に担って自分自身を高める活動をしている児童がいた。 ・マナー教室がマナー教室のための回答になっていて、実践につながっていないのが残念。 ・児童一人一人が、自分の思いや考えていることを繰り返し伝えることで目標や夢が膨らむと考える。	主幹教諭
○不登校傾向や問題行動等への対応	○問題行動の未然防止及び迅速な対応	○学校アンケート「学校は楽しい」の設問に肯定的な回答をした児童の割合が88%以上。	・校内体制を整え、こまめに検討会や支援会議を設ける。また、保護者には、支援的な立場での相談体制を受け付けて、問題の早期発見・解決につなげる。 ・生徒指導連絡会による学校全体での情報共有と指導の統一を行う。	A	・生徒指導連絡会を定期的に開催し、全体での情報共有と指導の統一を行っている。 ・「学校は楽しい」と肯定的な回答をした児童の割合は91%であった。	A	・生徒指導と教育相談に関する打ち合わせを毎月確実に行うことで、検討会や支援会議へとつなげることができ、関係者間の連携を生かした適切な対応が可能となった。 ・関係職員による支援会議を実施し、支援体制を整えることで、不登校傾向にある児童への適切な対応が可能となった。担任一人に任せるとはならず、複数の職員が連携して声掛けや対応を行い、組織的な支援を具体化することができた。 ・「学校は楽しい」と肯定的な回答をした児童は、年間通して90%を超えていた。今後もこの状況を維持するた	A	・毎月(定期的に)生徒指導連絡会等が開催されていることで、組織的に連携ができています。	教頭 主幹教諭

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・学校目標「自ら学び、やさしく、たくましく生きる『弥生っ子』の育成」の具現化に向けて、ほとんどの項目で成果が上がってきている。今後も、成果が見られた取組等は継続して行うとともに、取組内容や成果指標を見直しながらさらなる改善策をとり、課題の解決に向けて取組を進めたい。</p> <p>・教職員の時間外在校等時間が減少したおかげで、心身のゆとりが生まれ、児童と向き合う時間の確保につながったことが各評価項目の向上につながったと考えられている。しかし、個々人で見ると長短の偏りが大きいため、今後も見通しを持って業務にあたるような取り組みを継続していきたい。</p> <p>・学校運営協議会や地域学校協働活動推進委員、また、PTAと連携しながら全学年に体験活動を実施することができた。今後も、コミュニティ・スクールの良さを活かし、地域との連携をさらに強化し、よりよい学校を構築していく。</p>
----------------	--